

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	令和6年度の目標	取り組みの内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
1	教育課程学習指導	<p>① 基礎学力の定着と大学進学を視野に入れた授業を実践する。</p> <p>② 主体的、自主的に学習に取り組む態度の醸成、伸長をめざした授業改善により自律的学習を図る。</p>	<p>① 今年度で3年生まで実施された新たな教育課程の編成が大学進学へ十分対応できたものにする。</p> <p>② 学習コンテンツの活用により、自主学習のきっかけとなり授業改善により自律的学習を図る。</p>	<p>① 科目選択の際に生徒との面談から要望、授業評価アンケートの内容。</p> <p>② 生徒が学習コンテンツをしっかりと利用できているか。</p>	<p>① 生徒面談からの要望、授業評価アンケートの内容。</p> <p>② 学習動画コンテンツ操作説明会を教職員向けに実施し、課題配信や課題の達成状況の確認方法などを周知した。また、活用率 50%~60% (3年生を含む) であった。</p>	<p>① 新教育課程の3年における理系、文系コースを一部変更したが概ね生徒からは評価されていた。</p> <p>② 教室内でWi-Fiがうまくつながらない事例がまだあり改善が必要。3年生の活用率を上げるために接動画や小論文動画などを活用させたい。</p>	<p>① 新教育課程での入試科目的内容に3年における理系選択が適しているか検証していく必要がある。</p> <p>② 学習動画コンテンツの利用が50~60%とのことだが、生徒の学習意欲を高めるコンテンツの選択などさらなる有効な活用が進むとよい。</p> <p>・スタディサプリは宿題の提出のやり取りなどができる便利のようだが、様々な学習場面での活用が求められる。</p>	<p>・新教育課程に関する総合的な振り返りが行われていた。課題として理系選択の適宜性の検証が挙げられた。</p> <p>・学習動画コンテンツの活用をさらに進める必要がある。</p>	<p>・電子黒板の効果的な利用についてさらに検討を進めていく。</p> <p>・ICT活用が目的とならないよう取り組みを検証し、進路との関係も含め、全職員に向け活用事例などの共有などを充実させていく。</p>	
2	生徒指導・支援	<p>① SCやSSWと連携した能動的・組織的な生徒支援体制や教育相談体制の確立に向け、教員相互の連携や外部機関との連携を積極的に行う。</p> <p>② 部活動の更なる活性化を図り、挨拶や素直な心を基盤とした人間関係形成力や自己表現力を育成する。</p>	<p>① 生徒のニーズに答えることができる支援体制や教育相談体制の確立に向け、教員相互の連携や外部機関との連携を積極的に行う。</p> <p>② 社会性や豊かな心を育むため、更なる部活動の活性化を図る。</p>	<p>① 日常の生徒対応やサポートドックの活用により、生徒の抱える課題に対する支援を行なうことができた。</p> <p>② 部活動をとりまく制度を整備し、主体的に取り組める環境を整えることができた。</p>	<p>① 教育相談コーディネーターを中心とした生徒支援、教育相談を行うことができた。</p> <p>② 部活動に主体的に取り組める環境を整えることができた。</p>	<p>① サポートドックの結果により見出した生徒が抱える課題に対しSCやSSWと連携しながら対応した。</p> <p>② 顧問間で調整を図り、活動できる環境を整えることができた。</p>	<p>① 潜在的に課題を抱える生徒に対してのアプローチについて、継続的に検討を行う。</p> <p>② 今後は顧問の確保と調整が課題である。</p>	<p>・サポートドックの実施とSC、SSWの連携により一定の効果があったことが認められる。教員やSC、SSWの働き掛けにより、生徒がひとりで悩みを抱えるのではなく、他者に気持ちを出せるようになることは大切である。</p> <p>・部活動加入率が70%ということだが、今後も活気のある活動を期待する。</p> <p>・生徒の活躍の場をHPで宣伝してあげてほしい。</p>	<p>・サポートドックの効率的な実施や、SC、SSWとの連携による適切な生徒対応を行うことができた。しかし、潜在的に課題を抱える生徒が幾許か存在しているとも考えられる。</p> <p>・各部活動で大会実績において優秀な成績を残すことができ、成果を上げたと考えている。</p>	<p>・サポートドックの実施時期や質問項目の精査を行うとともに、パッショ型面談の対象生徒についてSCやSSWと連携しながら検討していく。</p> <p>・部活動の実績を外部へPRすることで部活動加入率につなげたい。また、顧問体制も負担にならないよう工夫していく。</p>

3	進路指導・支援	<p>① 生徒一人ひとりが自己理解を深め、将来を具体的に考える姿勢を育成する。</p> <p>② 主体的に進路目標を設定し、達成に向けた取組みの実践へと繋がる探究活動の充実を図る。</p>	<p>① 自己理解を深化させ、自己の将来について考え、進路目標に向けて主体的に学習活動等に取り組む姿勢を育てる。</p> <p>② 生徒一人ひとりの進路目標をふまえて、希望する進路実現や社会参画を見通した探究活動が実践できる環境作りに努める。</p>	<p>① 「総合的な探究の時間」の活用等による生徒の主体的な活動の充実に必要な情報を収集し、職員相互での共有を図り、生徒一人ひとりの将来の在り方に応じた組織的な進路支援を行う。</p> <p>② 探究活動に取り組み、生徒が自己的性検査・分野別進路ガイダンス等の企画や面接指導などの支援体制をより充実させる。</p>	<p>① 職員が上級学校等の情報を積極的に収集し、共通理解を深め、スキルを向上させることにより、「総合的な探究の時間」において生徒へ効果的な指導や支援をすることができたか。</p> <p>② 各学年の探究活動において上級学校ガイダンス、分野別ガイダンス、キャンパス訪問等を実施し、生徒一人ひとりの主体的な進路実現に向けた環境作り、キャリア支援を行った。</p>	<p>① 生徒の主体的・能動的な進路活動の充実に向けて、上級学校の入試情報の収集に努め、職員の共通理解のもと、「総合的な探究の時間」や全体説明会を通じて、適切な情報提供、発信を行い、効果的な支援を行った。</p> <p>② 3年間を見通した探究活動や自己の将来設計をふまえて、新学習指導要領に基づいた計画的・継続的な活動を実践し、生徒が自己理解を深め、自己肯定感をもてるよう企画の立案に努める。</p>	<p>① 新学習指導要領に基づいた入試制度の見直し・変更について、入試情報を正確に職員で共有することが課題であり、引き続き、より一層の共通理解に努める。</p> <p>② 推薦入試でも求められているように、思考力・判断力・表現力や、校長が推進している集団効力感の育成に期待する。</p>	<p>・「総合的な探究の時間」を活用しながら、生徒一人ひとりの将来の在り方に応じた組織的な進路支援が行われた。</p> <p>・年内に約80%の生徒が推薦入試で進学先が決まっているそうだが、変化する入試制度への対応がより一層求められる。</p>	<p>・「総合的な探究の時間」や全体説明会を通じて、生徒の進路活動に対し適切な情報提供、発信を行い、効果的な支援ができた。入試情報の詳細を正確に職員で共有し発信することが課題である。</p> <p>・各学年の探究活動において上級学校ガイダンス、キャンパス訪問等を実施し、生徒の進路実現に向けた支援ができた。生徒の将来設計を見通し、多様な探究活動の計画立案が課題である。</p>	<p>・新学習指導要領に基づいた入試制度の見直し・変更をふまえ、情報の提供や発信の時期を早める等の対策を検討し、より一層の共通理解に努める。</p> <p>・新学習指導要領をふまえ、生徒が自己肯定感、自己効力感、集合的効力感をもてるよう成功体験につながる場、仲間と挑戦を共有できる場の企画立案に努める。</p>
4	地域等との協働	<p>・地域社会との交流や連携・協働を通して、地域とのつながり・絆を強化し、地域の一員としての自覚を持つ「社会性豊かな生徒」の育成と「地域とともにある学校づくり」を推進する。</p>	<p>・地域社会との交流や連携・協働を通して、地域の一員として、つながり・絆を大切に思う心を育成する。</p> <p>・一層の情報発信や地域連携の充実を図る。</p>	<p>・地域との連携事業への積極的な参加を促進する。</p> <p>・HP等を活用し、効果的な学校の広報、情報発信を行う。</p>	<p>・荏田高校の地域連携事業が地域から愛され、高い評価を受けることができたか。</p> <p>・荏田高校の良さを、地域へ発信することができたか。</p>	<p>・荏田坂清掃や荏田南小・中の連携事業を継続して行った。</p> <p>・HPの内容をより分かりやすくする見直しを行い、更新回数を増加させた。</p> <p>・学校説明会、学校見学を実施し、広報活動を積極的に行った。</p>	<p>・地域社会と協働した、定期的な交流の実施方法を検討する。</p> <p>・荏田高校の魅力特色を理解してもらうために、中学生やその保護者の視点にたったHPの充実をさらに図る。</p> <p>・中学生やその保護者の視点にたった学校説明会や学校見学会の実施、中学校へ出張しての説明会の充実を図る。</p>	<p>・荏田南小学校、荏田南中学校との連携事業では好評を得たため、成果を上げたと考えた。</p> <p>・ホームページが少し地味ではないか。魅力あるものとする工夫を期待する。</p> <p>・生徒と教師が荏田を創っている。地域はそれをサポートする役目。地域連携を意識してほしい。</p>	<p>・近隣小中学校との連携事業では好評を得たため、成果を上げたと考えた。</p> <p>・HPや学校説明会ではさらなる充実が必要である。</p>	<p>・地域のイベントなどにも参加できるようつながりを強化していく。</p> <p>・生徒が作成したコンテンツの導入も検討し、HPを充実させていく。</p>
5	学校管理学校運営	<p>① 生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る学校運営業務・教育活動業務の環境整備に取り組む。</p> <p>② 職員が学校運営上の課題を理解・共有するとともに、リスクマネジメントの意識した安全・安心な学校運営を図る。</p>	<p>① 生徒と向き合う時間を確保するために、校務の効率化等を図る学校運営業務・教育活動業務の環境整備に取り組む。</p> <p>② 職員が本校の学校運営上の課題を共有し、リスクマネジメントの意識した安全・安心な学校運営を図る。</p>	<p>① 若手職員とのコミュニケーション、ICT活用による業務効率化における課題の改善を推進する。</p> <p>② 学校運営上の課題の共通認識、研修・掲示物による可視化等の工夫による職員のリスクマネジメントの意識の維持・向上を図る。</p>	<p>① 学校運営における職員相互の共通認識を図れたか。</p> <p>② ICT活用の業務効率化の環境整備を進められたか。</p> <p>② コロナ禍前後による学校運営業務の改善ができたか。</p> <p>② 職員のリスクマネジメントの意識を促すことができたか。</p>	<p>① 人権研修会・防災訓練・電子黒板導入等を通じて職員相互の共通認識を図った。ICT活用として、電子黒板の授業での利用普及や電子採点・マークテスト採点の環境整備の促進を図った。</p> <p>② コロナ禍後の儀式行事の運営や職員間の連絡・生徒への連絡においてTeams・Classroomの利用を促進し、コミュニケーションの可視化を含めた改善・普及を図り、職員のリスクマネジメントの意識を促した。</p>	<p>① 職員の共通認識を意識して継続的に学校行事の運営を図る必要がある。ICT活用の環境整備・普及をさらに図り校務を効率化して生徒と向き合う時間を確保に努める必要がある。</p> <p>② コロナ禍及びその前後の学校運営上の改善点に目を向け、職員間で課題を共有し、安全・安心な学校づくりを継続する。</p>	<p>・ICT機器の活用、対話的で深い学びの充実など様々な取り組むべき課題がある。</p> <p>・電子黒板が導入されたことによる、授業やその他の行事等、様々な場面での活用が求められる。</p> <p>・②学校運営上の課題が何かはよくわからなかったが、TeamsやClassroomの利用により「コミュニケーションの可視化」が行われ、リスクマネジメントの意識が促されていることが認められる。①内にある人権研修会や防災訓練もリスクマネジメントに含まれるのではないか。</p>	<p>・研修会等を通じ、職員間の共通理解を促進し成果を上げた。</p> <p>・ICT活用による職員間のコミュニケーションの活性化を充実し、不祥事防止の意識の醸成を図れた。</p>	<p>・ICT機器を活用することにより業務の効率化をすすめられる環境をさらに整える。</p> <p>・職員がやりがいを混じることが不祥事防止の基本であることを意識し、研修会を通じて同僚性の向上を図る。</p>